
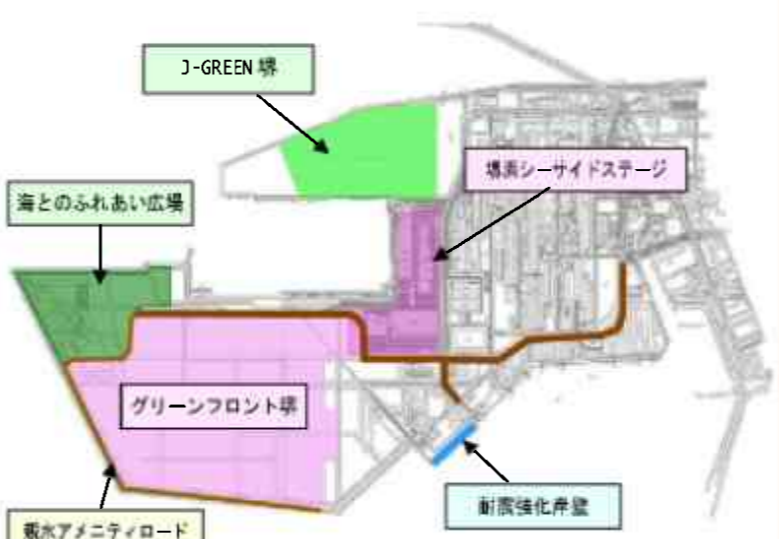



# ウォーターフロントにおける大規模跡地等の活用事例

参考資料



(工場跡地1)

	① 蘇我臨海地区 (千葉県千葉市)	② 堺浜地区(堺2区) (大阪府堺市)	③ 尼崎臨海地区 (兵庫県尼崎市)
計画図等			
地区面積	約116ha	約277ha	約29ha
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●昭和20～30年代に整備された製鉄所が、機能更新に伴い沖合い埋立地区への移転を行ったことにより、大規模な工場跡地が発生</li> <li>●土地区画整理事業地は、蘇我副都心の拠点形成の先導的なエリアとして、賑わいのある商業・業務等への土地利用転換の実現を目指した都市基盤施設の整備を図り、良好な市街地を形成</li> <li>●スポーツ公園は、スポーツ振興の拠点となる運動公園として、また市民の多様化するレクリエーション需要に対応するとともに、防災拠点となる機能を兼ね備えた公園として整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●堺浜(堺2区)のある堺北臨海部地区は、昭和30年代に堺京北臨海工業地帯として造成</li> <li>●平成2年、堺浜に立地していた新日本製鐵は高炉・焼結等の工場を閉鎖し、大阪ガス跡地を含めて約277haの遊休地が発生</li> <li>●平成15年、新日本製鐵が堺臨海地域商業アミューズメント事業計画を発表</li> <li>●商業アミューズメント施設整備と並行して道路や親水護岸等の整備が進められ、水辺を市民の親しみ空間に転換</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●尼崎臨海地域は、重化学工業を中心に日本の産業経済に寄与</li> <li>●しかし、近代化の過程において自然を失うとともに、公害の発生など環境面での課題を抱え、また、近年の産業構造の変化等により工場等の遊休地が発生するなど地域の活力が低下</li> <li>●平成14年、魅力と活力あるまちに再生するため、人々の暮らしにゆとりと潤いをもたらす水と緑豊かな自然環境の創出による環境共生型のまちづくりをめざし「尼崎21世紀の森構想」を策定</li> <li>●リーディング・プロジェクトとして、尼崎の森中央緑地(23ha)の整備を推進</li> <li>●スポーツ健康増進施設(愛称 尼崎スポーツの森)を中心とした第1工区(約7ha)を平成18年から供用開始</li> </ul>
事業費 (民間事業は除く)	約578億円 約118億円：土地区画整理事業(UR都市機構：約38.5ha) 約408億円：蘇我スポーツ公園(UR都市機構、千葉市) 約52億円：街路事業(UR都市機構)	約278億円 約162億円：基幹的広域防災拠点(国土交通省) 約57億円：J-GREEN堺(堺市) 約53億円：区画道路・公園(堺市) 約6億円：親水アメニティロード(堺市)	約590億円 尼崎の森中央緑地(兵庫県)
事業期間	平成14年度～平成28年度	平成17年度～平成24年度	平成14年度～
コンセプト	—	—	地域を育てる森づくり
主要機能(施設)	<ul style="list-style-type: none"> <li>【商業・アミューズメント】</li> <li>- フェスティバルウォーク、アリオ蘇我、ホームズ</li> <li>【スポーツ】</li> <li>- 千葉市総合スポーツ公園、ティップネス蘇我(フィットネスクラブ)</li> <li>【レクリエーション】</li> <li>- 寒川緑地等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【商業・アミューズメント】</li> <li>- 堺浜シーサイドステージ</li> <li>【業務】</li> <li>- グリーンフロント堺</li> <li>【スポーツ】</li> <li>- J-GREEN堺(サッカートレーニングセンター)</li> <li>【レクリエーション】</li> <li>- 海とのふれあい広場</li> <li>【防災】</li> <li>- 耐震強化岸壁</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【スポーツ】</li> <li>- 健康増進施設(プール、フィットネス、スケート、フットサル、グランドゴルフ等)</li> <li>【レクリエーション】</li> <li>- 野外活動広場、多目的広場、自然観察路</li> </ul>
出典	千葉市ホームページ、UR都市機構ホームページ	堺市ホームページ、国土交通省ホームページ	兵庫県ホームページ

(工場跡地2)

		④ 八幡東田地区 (福岡県北九州市)	
計画図等			
地区面積	約120ha		
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>●明治34年に八幡製鐵所が操業を開始したが、規模縮小に伴い約12haの遊休地が発生</li> <li>●平成2年、スペースワールド開業</li> <li>●広大な企業の未利用地を有効活用するため、企業・経済団体・行政が一体となった東田土地区画整理事業を実施</li> <li>●平成13年、環境をテーマとした「北九州博覧祭2001」を開催</li> <li>●平成14年、跡地利用と東田地区全体を対象とした「八幡東田地区グリーンヴィレッジ構想」を策定し、企業や市民団体などとの協働により、総合的な環境配慮のまちづくりを展開</li> </ul>		
事業費 (民間事業は除く)	約467億円	土地区画整理事業(区画整理組合)	
	事業期間	平成5年度～平成14年度	
コンセプト	職・住・学・遊が融合し進化する「パークコンプレックスシティ」		
主要機能(施設)	<p>【商業・アミューズメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スペースワールド</li> </ul> <p>【業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・製鐵所、九州ヒューマンメディア創造センター</li> </ul> <p>【教育・文化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北九州市立自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館)</li> </ul> <p>【レクリエーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ベイフロントパーク</li> </ul> <p>【住宅】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中高層住宅</li> </ul>		
出典	北九州市ホームページ、環境省ホームページ		

(その他)

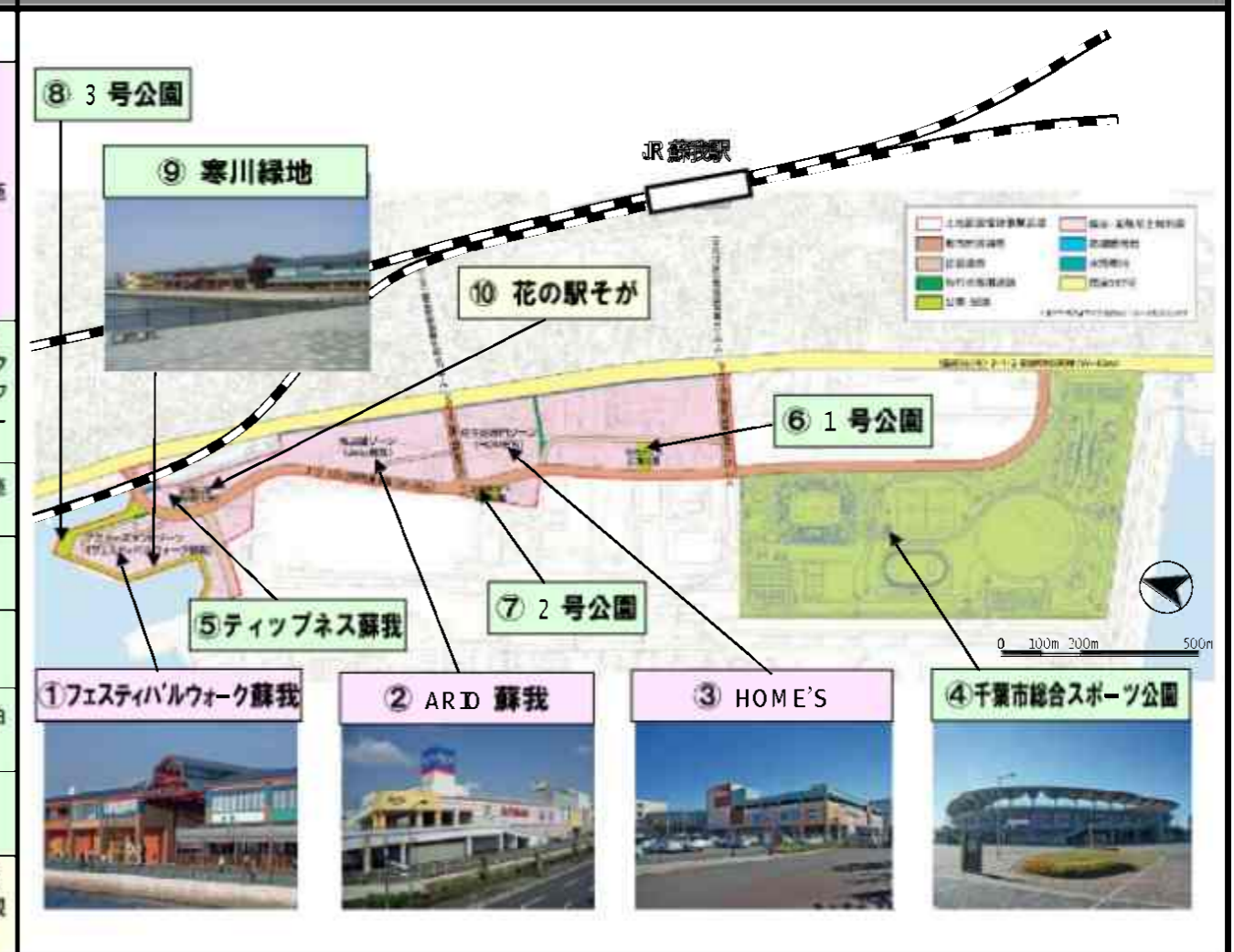
		⑤神戸ハーバーランド地区 (兵庫県神戸市)		⑥門司港レトロ地区 (福岡県北九州市)	
					
	約17ha		約102ha		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●昭和57年の国鉄湊川貨物駅の機能停止を機に、神戸駅の玄関口に位置し都心に近接したウォーターフロントの立地を生かした新しい都市拠点づくりを目指して、「海につながる文化都心の創造」をテーマに整備を推進</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●門司港地区の活性化のため、歴史的建造物と関門海峡の景観を生かした都市型リゾート地区の整備を行い、人の集まる賑わいの観光地づくりと快適な居住空間を創出</li> </ul>		
	約168億円	土地区画整理事業(UR都市機構)	約427億円	門司レトロ事業(北九州市)	
	昭和61年度～平成4年度		昭和63年～		
	海につながる文化都心の創造		歴史のいきづく大正ロマンのまち、うるおいと活気に満ちたウォーターフロント、特色ある文化創造の拠点		
	<p>【商業・アミューズメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロメナ神戸、Ha・Re、モザイク等</li> </ul> <p>【教育・文化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸海洋博物館</li> </ul> <p>【業務】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸市産業振興センター</li> </ul> <p>【レクリエーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハーバーウォーク、ハーバーランド広場</li> </ul>		<p>【商業・アミューズメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・門司港レトロ観光物産館、門司港ホテル、海峡プラザ等</li> </ul> <p>【教育・文化】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・九州鉄道記念館、関門海峡ミュージアム</li> </ul> <p>【レクリエーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウォーターフロントプロムナード</li> </ul>		
	UR都市機構ホームページ、神戸ハーバーランド株式会社ホームページ		北九州市ホームページ		

# ① 蘇我臨海地区 (千葉市)

## 主要な導入機能(施設)の状況

機能	施設名	施行者	施設規模	供用時期	備考
商業・アミューズメント	① フェスティバルウォーク蘇我 (複合商業施設)	民間事業者	敷地面積 約3.5ha 延床面積 約2.4ha 駐車場 410台	平成17年4月	来場者数等は非公表 まちの賑わいを創出する施設として開業
	② ARD (アリオ)蘇我 (大型ショッピングセンター)	民間事業者	敷地面積 約6.8ha 延床面積 約5.8ha 駐車場 1,650台	平成17年4月	
	③ HOME'S (ホームズ) (家具&ホームセンター)	民間事業者	敷地面積 約3.9ha 延床面積 約6.7ha 駐車場 1,295台	平成17年4月	
スポーツ	④ 千葉市総合スポーツ公園 (防災公園)	都市再生機構	敷地面積 約46ha 球技場、庭球場、多目的広場、遊具広場等	平成17年10月 一部供用	利用者数 約40万人/年 公園内にある球技場(フクダ電子アリーナ)は「ジェフユナイテッド千葉」のホームグラウンドとして活用
	⑤ ティップネス蘇我 (フィットネスクラブ)	民間事業者	敷地面積 約0.5ha 駐車場 47台	平成20年1月	まちの賑わいを創出する施設として開業
レクリエーション	⑥ 1号公園	都市再生機構	敷地面積 約0.5ha	平成19年3月	用地確保のみ(船舶停泊施設として暫定利用)
	⑦ 2号公園		敷地面積 約0.2ha	平成19年3月	
	⑧ 3号公園	千葉県	敷地面積 約0.7ha	整備中	
	⑨ 寒川緑地		敷地面積 約0.7ha	平成18年度 一部供用	
その他	⑩ 花の駅そが	蘇我臨海部 まちづくり推進 協議会	敷地面積 約0.4ha 駐車台数 20台	平成19年5月 (施設は7月)	花壇に飲食・物販施設を併設 商業事業者等関係者が美観と賑わい創出のため計画

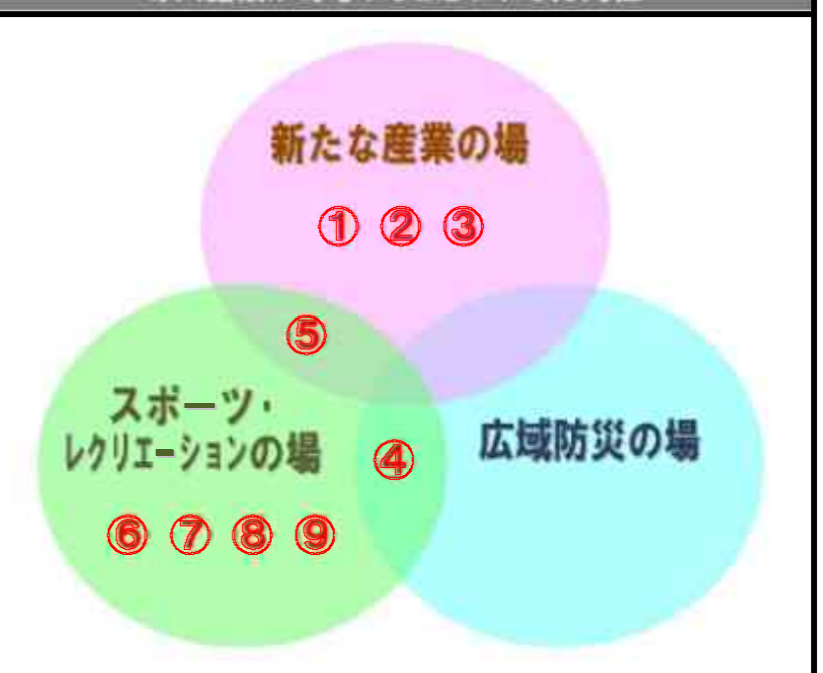
## 参考図



## 土地活用に関する特徴・アイデア

意識したことや工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地区全体の整備を先導する事業として、土地区画整理事業、公園事業、街路事業の3つの事業を位置付け、骨格的な都市基盤施設を短期間で整備</li> <li>●それにより、商業・業務機能ゾーンの早期形成を図り、臨海部における大規模未利用地の土地利用転換を推進</li> <li>●大規模製鉄所が段階的に遊休地化することから、まちづくりの目標を見据えながら段階的に整備</li> </ul>
ウォーターフロントの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●水辺にベルト状の緑地を配し、緑地に接する地区をアミューズメントゾーンと位置づけ賑わいのある親水空間を実現</li> <li>●親水空間の全体計画は護岸600m、緑地1.8haに及び、引き続き千葉県が整備を進め、順次、供用開始予定</li> <li>●水上バスの社会実験やカヤック体験等を開催</li> </ul>
ソフト的な取組 (管理運営含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●商業事業者が共同でJR蘇我駅からシャトルバス(無料循環バス)を運行</li> <li>●商業事業者を中心としてイベントを開催</li> <li>●寒川緑地の一部はいわゆる公設民営として商業事業者が共同で管理</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●千葉市(計画推進、関連事業主体)、JFE スチール㈱(地主、既存工場除却・商業施設誘致)及びUR都市機構(コーディネータ、区画整理施行者)の関係者間の適正な役割分担・連絡調整体制を整えることにより、共通目標である魅力ある商業地を早期に実現(区画整理事業認可からまちびらきまで約2年、換地処分まで約4年というスピーディーな事業執行が行えた。)</li> </ul>

## 導入施設が寄与と思われる方向性

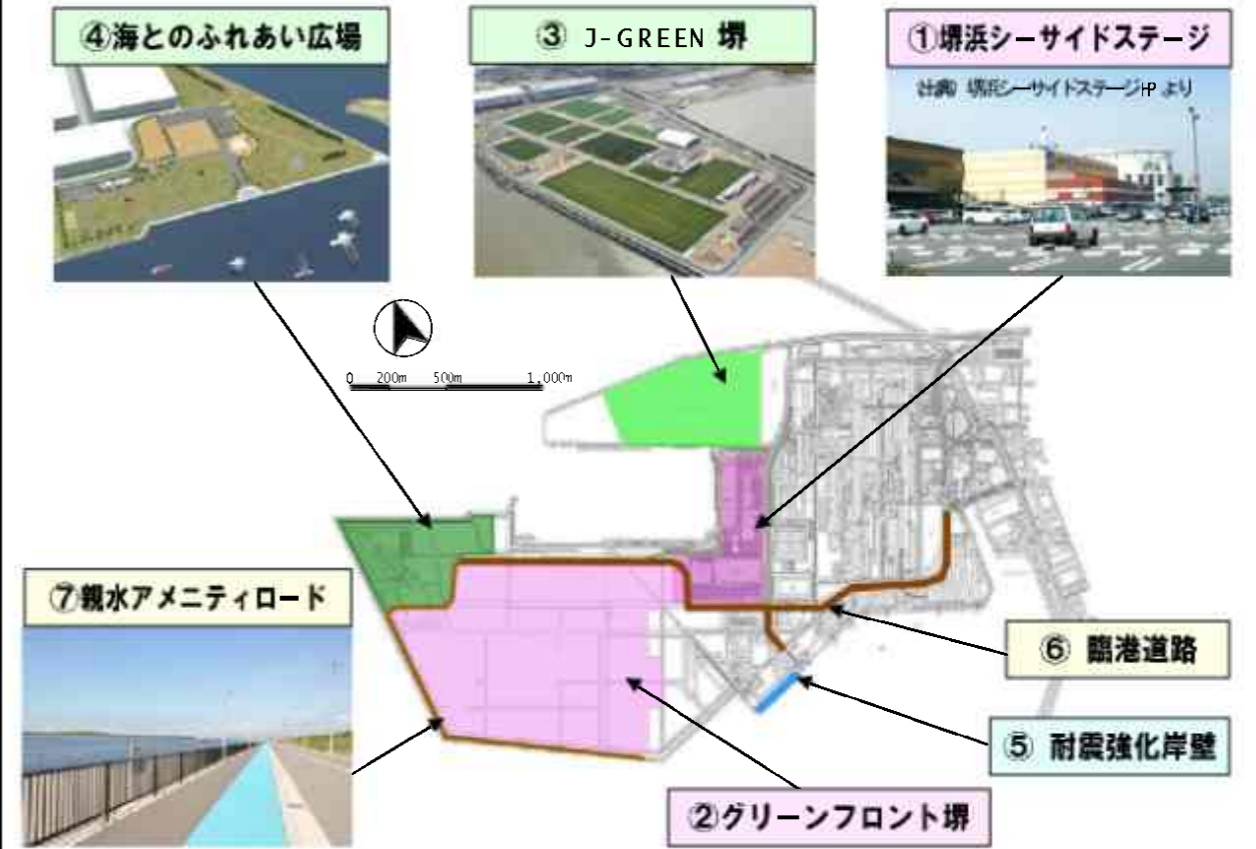


## ② 堺浜地区（堺市）

### 主要な導入機能（施設）の状況

機能	施設名	施行者	施設規模	供用時期	備考
商業・アミューズメント	① 堺浜シーサイドステージ（複合商業施設）	民間事業者	敷地面積 約40ha 施設面積 約6.7ha 駐車場 2,500台	平成18年3月	来場者数等は非公表 この開発を契機に土地利用の転換が促進
業務	② グリーンフロント堺（シャープ堺工場）	民間事業者	敷地面積 約127ha 液晶パネル工場 太陽電池工場	平成21年10月	雇用者数 約2,500人 ※50%以上市内居住者
スポーツ	③ J-GREEN堺（サッカートレーニングセンター）	堺市	敷地面積 約35ha 駐車場 823台 サッカー14面 フットサル8面 など	平成22年4月	利用者数 約53万人/年 （平成23年度）
レクリエーション	④ 海とのふれあい広場（防災緑地）	民間事業者が整備し堺市に寄贈	敷地面積 約11ha 駐車場 300台 バーベキュー広場、ドッグラン、海釣りテラス	平成12年10月	利用者数 約7～9万人/年 平時は一体的に市民の憩いの場として活用 災害時には、救援物資の中継・分配や支援部隊のベースキャンプなど基幹的広域防災拠点として機能
		国土交通省	敷地面積 約17ha 近畿圏臨海防災センター	平成24年4月 一部供用	
防災	⑤ 耐震強化岸壁	国土交通省	水深7.5m 延長130m	平成24年1月	平時は公共バスとして機能
その他	⑥ 臨港道路	国土交通省	L=3,500m（2～4車線）	平成21年12月	沿道の土地利用が増進
	⑦ 親水アメニティロード	堺市	L=2,500m（2車線） 併せて休憩施設も整備	平成22年4月	補助幹線道路として機能

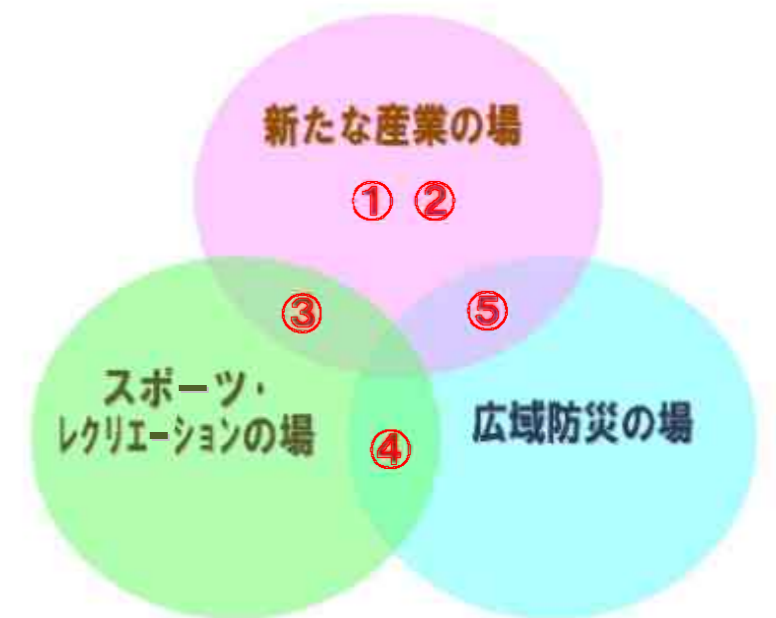
### 参考図



### 土地活用に関する特徴・アイデア

意識したことや工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大阪府、堺市、新日鐵住金株等で構成する「堺北エリア開発整備協議会」を設置し、計画の合意形成や相互協力等の協議を実施（平成22年解散）</li> <li>●土地所有者（新日鐵住金株）から用地の無償提供を受けて、臨港道路、公園、緑地などの公共施設整備を実施</li> <li>●国事業（基幹的広域防災緑地整備事業）と連携した土地活用の推進</li> </ul>
ウォーターフロントの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●臨海部緑地の自然回復の場（防風林、草地、芝地など）や、海辺の風景を楽しむ場（ジョギング、サイクリング、散歩）など、大阪湾の再生を象徴する場として活用</li> </ul>
ソフト的な取組（管理運営含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●企業の立地を促進するため、補助金や減免等の企業立地促進制度を活用</li> <li>●急行停車駅からバス路線を新設し、進出企業にエコ通勤を推奨</li> <li>●民間事業者からの「商業アミューズメント事業」提案を受け、用途の規制緩和を実施</li> <li>●公募を行い「まち」の愛称を決定（愛称：堺浜）</li> <li>●防災緑地を大阪府（港湾管理者）と管理協定を結び市が管理（平成25年度～）</li> <li>●「J-GREEN堺」の管理運営にあたっては指定管理者制度により民間ノウハウを活用</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●これまで企業が独占していた臨海埋立地と水辺を市民に開放</li> <li>●短期間（約10年）で277haの遊休地が活用（考えられる要因） <ul style="list-style-type: none"> <li>①堺市がプロジェクト組織（H22解散）を立ち上げ主体的に地元調整を実施</li> <li>②国直轄によるインフラ整備</li> <li>③迅速な港湾計画の変更</li> <li>④高速道路網に優れた立地条件 など</li> </ul> </li> </ul>

### 導入施設が寄与と思われる方向性



## ⑤ 神戸ハーバーランド地区（神戸市）

### 主要な導入機能（施設）の状況

機能	施設名	施行者	施設規模	供用時期	備考
商業・アミューズメント	① プロメナ神戸 (複合商業施設)	民間事業者	敷地面積 約0.6ha 延床面積 約5.6ha	平成16年11月	
	② Ha・Re (複合商業施設)	民間事業者	延床面積 約5.5ha	平成18年11月	
	③ 神戸コンチェルト (レストラン船)	民間事業者	全長 74m 全幅 13m 旅客定員 604名	平成9年7月	
	④ 神戸ポートタワー (展望タワー)	(社)神戸港振興協会	展望室床面高 約91m	昭和38年11月	来場者数 約40万人/年 神戸港開港90周年施設
	⑤ モザイク (複合商業施設)	民間事業者 神戸市	敷地面積 約5.2ha 建築面積 約1.1ha 駐車場 約300台	平成4年10月	
	⑥ 煉瓦倉庫レストラン (レストラン)	民間事業者 神戸市都市整備公社	敷地面積 約0.6ha 延床面積 約0.2ha	平成2年9月	
	⑦ 神戸情報文化ビル(カルメニ)	民間事業者	敷地面積 約0.6ha	平成8年8月	
教育・文化	⑧ クラウンパレス神戸 (ホテル)	民間事業者	客室数 229室 収容人数 545名	平成5年8月	
	⑨ 神戸海洋博物館 (博物館)	(社)神戸港振興協会	敷地面積 約0.3ha 延床面積 約0.8ha	昭和62年4月	来場者数 約20万人/年 神戸港開港120周年施設
業務	⑩ 神戸市産業振興センター (産業支援施設)	神戸市	敷地面積 約0.2ha 延床面積 約1.1ha	平成5年5月	創業支援や経営相談、資金融資の相談等を実施
レクリエーション	⑪ ハーバーウォーク (遊歩道)	神戸市	L=140m (W=8m)	平成3年11月	「出会いのウォーターフロント」として魅力ある水辺空間をめざし、一体的な港湾緑地として整備
	⑫ ハーバーランド広場 (緑地)	神戸市	敷地面積 約0.5ha はね橋、人工滝等		
その他	⑬ 中突堤中央ターミナル	神戸市	浮桟橋3基 (6バース)	平成10年3月	利用者数 約30万人/年

### 参考図



〔出典〕神戸ハーバーランド振興HPより

### 土地活用に関する特徴・アイデア

意識したことや工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高度経済成長期以降、神戸市は「山、海へ行く」を合言葉に、六甲山地を削り、その土砂で海を埋め立てポートアイランドなどを造成するとともに、土砂を削った土地を住宅地や産業団地として開発し市街地を拡大(こうした手法は、「株式会社神戸市」と称され、全国の市町村から自治体経営の手本とされた。)</li> <li>●神戸ハーバーランド地区は、昭和57年の国鉄湊川貨物駅の機能停止を機に、神戸駅の玄関口に位置し都心に近接したウォーターフロントの立地を生かした新しい都市拠点づくりを目指して、「海につながる文化都心の創造」をテーマに整備を推進</li> </ul>
ウォーターフロントの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「出会いのウォーターフロント」として魅力ある水辺空間を形成するため、ハーバーランド広場を整備し、隣接する煉瓦倉庫レストランなどと一体となった賑わいを創出</li> <li>●ハーバーランド広場から海沿いにハーバーウォークを整備し、連続するウォーターフロント空間を形成</li> </ul>
ソフト的な取組 (管理運営含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地区環境の継続的な維持・管理、イベントなどの運営を目的に、神戸ハーバーランド棟を中心に、テナント、権利者、施設管理者等で構成する「ハーバーランド運営協議会」を設立</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●三宮から神戸という広域的な都心構造への転換により、都心西部の活性化を図るため、神戸ハーバーランドのまちづくりを実施</li> <li>●東西に都市拠点ができたことから両拠点間の回遊性が向上</li> </ul>

### 導入施設が寄与と思われる方向性



## ⑥ 門司港レトロ地区（北九州市）

### 主要な導入機能（施設）の状況

機能	施設名	施行者	施設規模	供用時期	備考
商業・アミューズメント	① 旧大阪商船	北九州市	敷地面積 約0.09ha 延床面積 約0.1ha	平成6年8月	利用者数 約20万人/年 入場料収入 120万円/年
	② 旧門司三井倶楽部	北九州市	敷地面積 約0.3ha 延床面積 約0.1ha	平成7年3月	利用者数 約20万人/年 入場料収入 350万円/年
	③ 門司港レトロ観光物産館（観光物産館）	北九州市	敷地面積 約0.3ha 延床面積 約0.2ha	平成10年7月	従業員数 約35人 利用者数 約30万人/年 売り上げ 約3億円/年
	④ 門司港ホテル（ホテル）	門司港開発	敷地面積 約0.6ha 延床面積 約1.8ha 駐車場 85台	平成10年3月	従業員数 約55人 利用者数 不明 売り上げ 約15億円/年
	⑤ 門司港レトロ展望室（展望台）	北九州市	敷地面積（区分所有） 延床面積 約0.08ha 展望室床面高 103m	平成11年4月	利用者数 約20万人/年 入場料収入 4,400万円/年
教育・文化	⑥ 海峡プラザ（複合商業施設）	門司港開発	敷地面積 約0.3ha 延床面積 約0.5ha 駐車場 30台	平成11年3月	従業員数 約170人 利用者数 約100万人/年 売り上げ 約13億円/年
	⑦ 九州鉄道記念館（博物館）	JR九州が整備し北九州市へ無償貸付	敷地面積 約0.8ha 延床面積 約0.3ha 駐車場 50台	平成15年8月	利用者数 約20万人/年 入場料収入 5,200万円/年
	⑧ 関門海峡ミュージアム	北九州市	敷地面積 約1.3ha	平成15年4月	利用者数 約50万人/年 入場料収入 5,000万円/年
レクリエーション	⑨ ウォーターフロントプロムナード	北九州市	整備面積 約1.5ha	平成4年11月	
その他	⑩ 関門連絡船	民間事業者	運航時間 20分、所要時間 5分 定員 約70名	明治22年9月	利用者数 約49万人/年
（参考） 下関市 唐戸地区	⑪ 海響館（水族館）	民間事業者	延床面積 約1.4ha	平成13年4月	来場者数 約70万人/年
	⑫ カモンワーフ（複合商業施設）	民間事業者	延床面積 約0.4ha	平成14年4月	
	⑬ 唐戸市場（魚市場）	下関市	延床面積 約1.4ha	平成13年4月	来場者数 約200万人/年

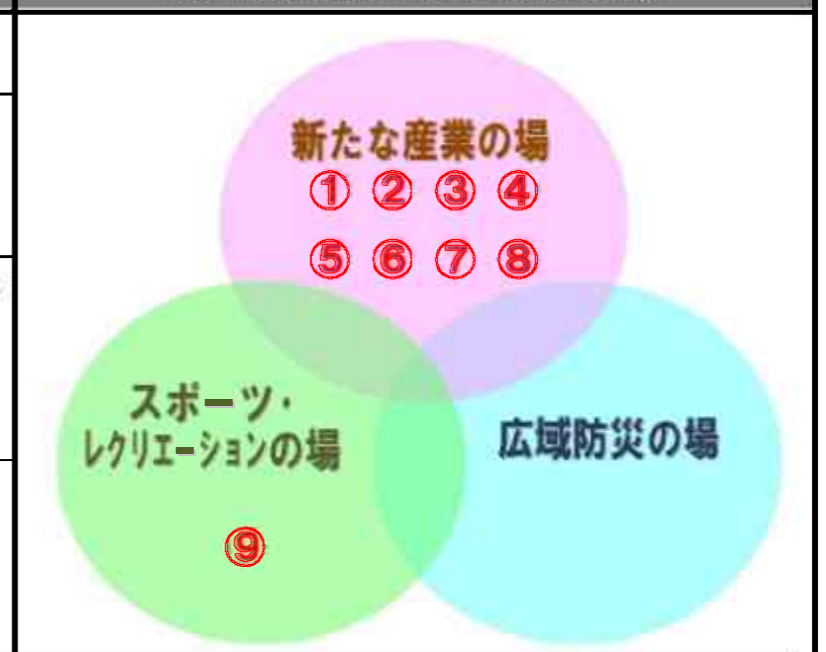
### 参考図



### 土地活用に関する特徴・アイデア

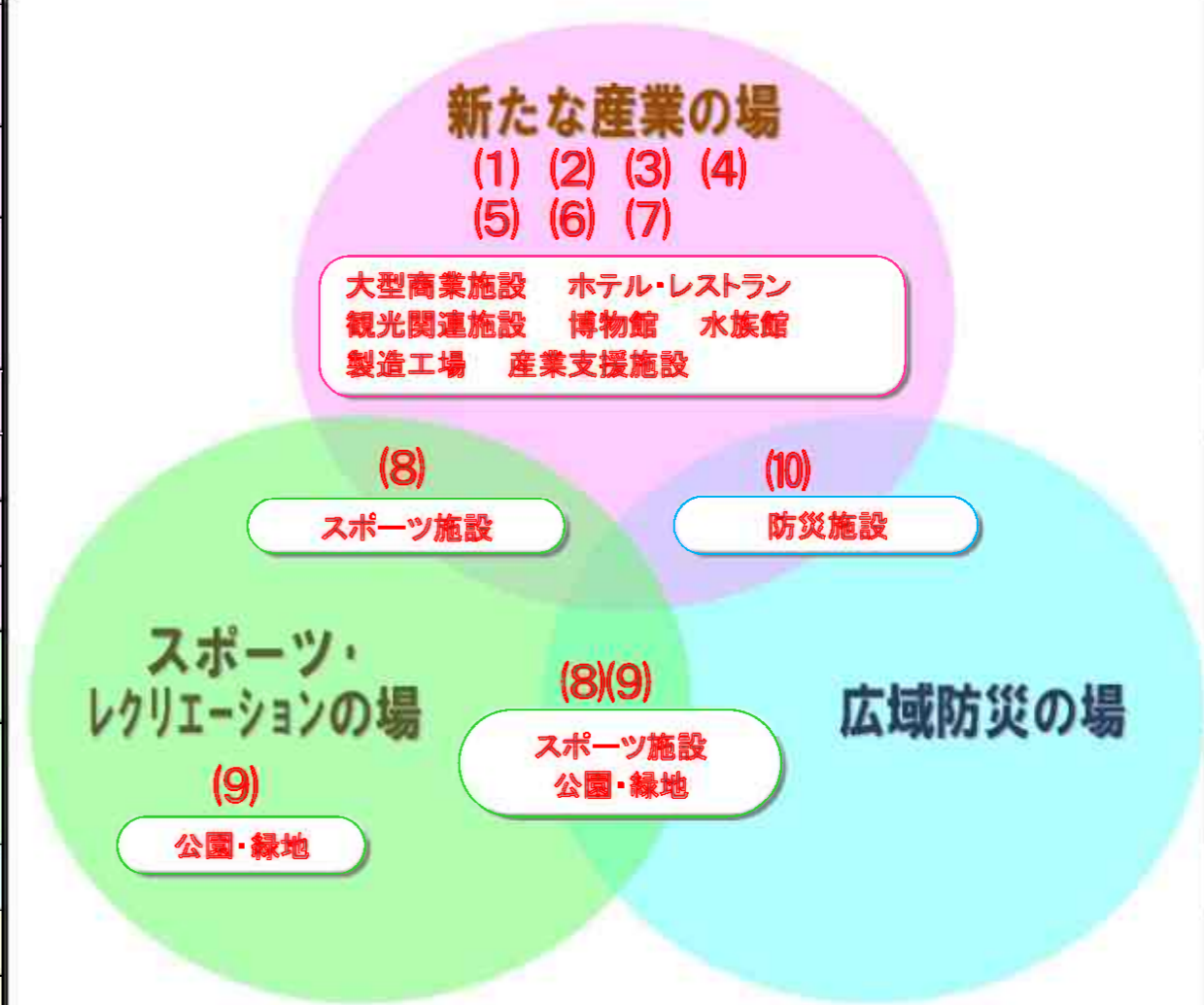
意識したことや工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「関門海峡」というテーマと地域資源を連携させた活用</li> </ul>
ウォーターフロントの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公共では緑地・広場等の整備を行い「憩いの場」として活用</li> <li>●民有地はホテル・商業施設など「商業空間」として活用</li> <li>●対岸の下関市（唐戸地区）への回遊性の向上に連絡船を活用</li> </ul>
ソフト的な取組（管理運営含む）	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「門司港レトロ倶楽部」という官と民で構成する組織（地元のまちづくり団体9団体やJR九州門司港駅、北九州商工会議所をはじめとする民間事業者10団体、市の経済文化局・港湾空港局・教育委員会・門司区役所）を結成し、イベント等のソフト事業はその団体を中心に実施（レトロ地区全体としては年間280件のイベントを開催）</li> <li>●北九州市、下関市等が関門海峡観光推進協議会を設立し、関門として一体的にPR</li> </ul>
評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>●観光客が平成7年開業時の年間100万人から現在は年間200万人～220万人の観光地となった。</li> <li>●旅雑誌「じゃらん」で九州の人気観光地の中で8位になるなど観光地づくりとしては成功している。</li> <li>●ただし、民間投資など経済効果については期待したよりも少なく、レトロ地区全体の雇用は670人程度である。日帰り観光が中心であるため、観光消費額も多くはない。</li> </ul>

### 導入施設が寄与と思われる方向性



# 事例における主要な導入機能の整理

主要な導入機能（施設）の分類				導入施設が寄与と思われる方向性	
機能	主要な導入施設	各地区における具体的な施設名			
		①蘇我臨海地区	②堺浜地区	⑤神戸ハーバーランド地区	⑥門司港レトロ地区（※唐戸地区）
商業・アミューズメント	(1) 大型商業施設 ・複合商業施設 ・大型ショッピングセンター ・ホームセンター	フェスティバルウォーク蘇我 ARID (アリオ)蘇我 HCME'S (ホームズ)	堺浜シーサイドステージ	プロメナ神戸 Ha・Re モザイク 神戸情報文化ビル	海峡プラザ ※カモンワーフ
	(2) ホテル・レストラン			神戸コンチエルト 煉瓦倉庫レストラン クラウンパレス神戸	門司港ホテル
	(3) 観光関連施設			神戸ポートタワー	旧大阪商船 旧門司三井クラブ 門司港レトロ観光物産館 門司港レトロ展望室 ※唐戸市場
教育・文化	(4) 博物館			神戸海洋博物館	九州鉄道記念館 関門海峡ミュージアム
	(5) 水族館				※海響館
業務	(6) 製造工場		グリーンフロント堺		
	(7) 産業支援施設			神戸市産業振興センター	
スポーツ	(8) スポーツ施設 (フィットネスクラブを含む)	千葉市総合スポーツ公園 (防災公園) ティップネス蘇我	J-GREEN堺		
レクリエーション	(9) 公園・緑地	1号公園 2号公園 3号公園 寒川緑地	海とのふれあい広場 (防災緑地)	ハーバーウォーク ハーバーランド広場	ウォーターフロントプロムナード
防災	(10) 防災施設		耐震強化岸壁		
その他	交通広場	花の駅そが			
	道路		臨港道路 親水アメニティロード		
	さん橋等			中突堤中央ターミナル	関門連絡船



主要な導入機能の傾向		その他
新たな産業の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>●集客や雇用の創出につながる次のものがあった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大型商業施設やホテル・観光関連施設などの商業・アミューズメント機能</li> <li>・地域特性を生かした教育・文化機能</li> <li>・製造工場などの業務機能</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基盤整備を先行実施することによって、民間事業者の参入を誘発した事例があった。</li> </ul>
スポーツ・レクリエーションの場	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スポーツ機能については、「新たな産業の場」にも寄与するものや、「広域防災の場」にも寄与するものがあった。また、レクリエーション機能については、「広域防災の場」にも寄与するものがあった。</li> </ul>	
広域防災の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>●防災機能のほか、スポーツ機能やレクリエーション機能を兼ねるものがあった。</li> </ul>	